

派遣留学生帰国報告書

記入日	2017年9月14日		
所属学部	融合理工学府		
所属学科・専攻	創成工学専攻デザインコース		

1. 留学先について

留学先大学名	ミラノ工科大学		
留学先所属学部等	School of Design, Product Service System Design Course		
留学期間	出発日 2016/8/26	入学日 2016/10/3	修了日 2017/7/4 帰国日 2017/7/31
住居	大学(紹介)の寮・アパート	<input type="radio"/> 民間アパート	その他()
	通学時間	20分	
	通学方法	徒歩+鉄道	
	居室スペース	個室 <input type="radio"/> (1) 人部屋	その他()
	共有スペース	<input type="radio"/> 完全個室 <input type="radio"/> キッチン <input type="radio"/> トイレ <input type="radio"/> バス <input type="radio"/> リビング	その他()
食事	自炊 <input type="radio"/> %	学食 %	外食 <input type="radio"/> % その他 % ()
保険	海外旅行保険(名称)	ジェイアイ傷害火災保険株式会社 リスク細分型特定手続用海外旅行保険	
	派遣先大学指定の保険(名称)		<input type="checkbox"/> 強制加入
	その他		
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)		
	成田 ⇄	モスクワ(飛行機)	⇄ ミラノ(飛行機)

2. 留学にかかった費用について

総費用	1600000	円	
出処			
自費	貯金 円	アルバイト 0 円	その他 円
援助	両親 65000/月 円	家族・親戚 円	その他 円
奨学金	JASSO 80000/月 円	その他名称()	円
その他	千葉大学助成金 円	その他()	円

2-1. 財政管理の方法

渡航時	現金	50000	円	その他()	円
留学中	海外送金		キャッシング	その他()	

2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	手渡し
住居にかかった費用	手渡し
その他	

2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			122000	円
海外旅行保険			160000	円
OSSMA			29160	円
査証・在留許可証	€	116.46	13160	円
住居	€	6050	683650	円
食費	€	1100	124300	円
通学に要する交通費	€	210	23730	円
教科書、教材費	€	156	17628	円
その他大学に支払った経費			0	円
光熱費			0	円
その他 (旅行・余暇活動)			400000	円
その他 ()				円
その他 ()				円
その他 ()				円

3. 学業面

履修科目名	種類 ^{ex.正規、聴講}	単位数	単位互換認定申請の有無		
			有	○	無
1 INNOVATION STUDIO PS1	正規	8	有	○	無
2 DESIGN METHODS PS1	正規	4	有	○	無
3 COMMUNICATION FOR FASION	正規	4	有	○	無
4 VISUALIZATION AND PROTOTYPING	正規	4	○	有	無
5 DESIGN SEMINAR	正規	4	○	有	無
6 LABORATORIO DI PROGETTO MODA M2	正規	8	有	○	無
7			有		無
8			有		無
9			有		無
10			有		無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

POLIMIのマスターコースのシラバスをウェブ上で確認し、規定の単位数を超えないように授業を選ぶ。デザイン学科には各コースの専門科目とデザイン学科全体の選択科目があり、どちらも自由に履修することができる。コースごとに異なるSTUDY PLANという、選択できる授業一覧が載ったPDFがメールで送られてきて、希望する授業にXをつけ、記名してメールで提出する。日程などにかぶりがなければそのまま受理される。SUTUDY PLANを出せば授業登録も自動で行ってもらえる。

3-2. 授業内容、方法に関して

STUDIOやPROJECTの授業は課題が与えられてそれをグループワークで進め、毎回先生からフィードバックをもらう。どの授業も前半に先生や企業の人からテーマに沿った内容のプレゼンテーションがある。POLIMIは学生数が多いため1つの授業に50人以上参加していることもある。3~6人のチームに分かれてグループワークを進めていく。デザイン学科は次の授業までに個人またはグループに課題が与えられて授業がない日も集まって話し合いをすることが多い。
私が所属していたPSSDはデザイン学科の中でも特に課題が多く、求められるクオリティも非常に高いため学校が始まると毎日のように集まって課題を進めていくことが多かった。

3-3. 語学力について

日常面:イタリアで生活していると基本的にイタリア語で話しかけられる。お店やレストランで使う会話は必須。ミラノではフラットシェアに暮らすことが多いが、私の場合一緒に暮らす大家さんはイタリア人だったため日常生活の基本的なイタリア語を話す機会が多くあった。
授業面:大学院の授業は英語で行われるものが多いでディスカッションやプレゼンテーションができるレベルの語学力が必要。イタリア語の授業をとった場合はグループの中に英語が話せる人がいればついていける。しかし、より多くのことを吸収するには、イタリア語も話せるとなお良い。

3-4. 図書館など学内施設について

デザインキャンパス、ラマサキャンパス、レオナルドキャンパスそれぞれに大きい図書館があり、本も自習スペースも充実している。場所によっては土日も開放しているのでグループワークをしている学生も多い。デザインキャンパスには工房や縫製のラボ、写真スタジオなど施設がとても充実している。プロジェクトでも個人でも作りたいものがあれば本格的な製作ができ、プロの撮影スタッフとセットで撮影ができる。施設を使うためにはオンライン試験に合格し、アポイントメントをとって実戦訓練を受けなければならない。

3-5. その他

デザイン学科の中にプロダクト、インテリア、ファッション、コミュニケーション、デザインエンジニアリング、プロダクトサービスシステムデザインがあり、基本的に自分のコースの授業を履修するが交換留学生はお願いすれば他コースの授業も受けさせてもらえる場合がある。コースごとに配布される時間割通りに履修するとかなり忙しくなってしまうことがあるので、自分のやりたいことに合わせて時間割を組むとよい。

4. 生活面

4-1. 住居について

学生は大学の近くか大学へのアクセスが良いところでフラットシェアをすることが多い。ミラノは中心部を離れる程家賃も安くなるが治安が悪いと言われている。住居を決める前に必ず現地の人に治安を確認すると良い。自分で家を探そうとするとイタリア語ができない場合かなり困難なので、イタリア語ができる知人や大学、語学学校に相談して決めると安心。フラットシェアで1人部屋の場合、月額400-600€ほどかかる。ミラノにはトラム、バス、地下鉄、鉄道があるので家からなるべく2つ以上の交通手段があると便利。

4-2. 食生活について

イタリアで暮らしていると食生活は非常に充実します。食材は安くて美味しく、特に野菜と果物が安いので自炊を続けていると健康的に節約できます。毎朝たくさんの野菜と種類豊かなおいしいチーズ、プロシュート、オリーブオイル、季節のフルーツをたっぷり摂れてとても幸せな気持ちになります。ピザ屋、バル、カフェ、ジェラテリアは街中であって一年間いても試しきれないほどたくさんです。ピザやコーヒーも種類が豊富で友達とお気に入りのお店を見つけて通う楽しさもあります。夜には一杯のお酒+お料理食べ放題のアペリティーボという文化があり、ミラノ中のバルがにぎわっています。アジアの料理が恋しくなってきたときはミラノの中心部にチャイナタウンがあるので本格中華を安く美味しく楽しめします。また、近頃は寿司やラーメンが人気なので日本食レストランも多く存在します。アジアスーパーもあるので日本食の自炊も容易にできます。イタリア料理はおいしいですがカロリーを摂り過ぎたなど思った翌日は野菜に切り替えて調節したり、健康管理には気をつけていた。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

家賃にインターネット料金が含まれていて引っ越した日からwifiが使えることが多い。友達の中には家にインターネットがない人もいたが多くのカフェでfree wifiが使えるので生活はできる。携帯電話はsim freeスマートフォンを持っていればTIM, WINDなどの携帯電話ショップに行くとすぐにsimカードを契約することができる。銀行口座を持っていなくてもタバッキという街中にあるタバコ屋さんのようなお店で毎月チャージができる。通話とインターネットで月額10€前後。契約内容により料金が異なる。

4-4. 服装について

気候は東京とあまり変わらないので特に持っていった方が良いものはないが、冬は寒いので厚手の上着を現地で買うとよい。私は夏に渡航したので最低限の服だけ持って行って、現地で買い足しながら過ごした。ファッションの街なのでお買い物も楽しめる。日本人は観光客に間違えられやすいのでわかりやすいポケットに携帯や財布を入れたりせず、閉まる鞆で持ち物管理には気をつける。

4-5. 健康管理について

食べるものに気をつける。薬は一式持っていくととても役に立つ。

4-6. 保険、OSSMAの利用

トラブルはなかったので利用しなかったが、外務省から送られてくる現地情報は役に立った。現地のテレビやBBCニュースをチェックしたり各国の治安情報は常に確認しておく。

4-7. 課外活動について

大学の工房設備が充実していたので空いた時間を見つけて作りたいものを製作していた。材料を調達するお店もある。おしゃれなお店やデザインショップに行くと、インスピレーションを受けて製作意欲が高まることも多かった。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

一度だけ日本人とイタリア人の言語交流を目的にしたアペリティーボに参加した。そこで、イタリアで働くデザイナーやシェフ、日本語を学びたいイタリア人に出会うことができた。イタリアでは近所付き合いも盛んなので困ったときに管理人さんや大家さんが助けてくれたり、近所のおじいさんと会話を楽しんだ。

4-9. 日本から持参してよかったもの

「電動の蚊取り線香」

ミラノは運河の街なので蚊がたくさんいる。網戸がない場合が多いので蚊取り線香があると蚊にさされなくて快適だった。

「日焼け止め」

夏はビーチに行く機会がかなり多かったが気温は37度近く日差しが非常に強いので、質が高く肌に合った日焼け止めが必須。イタリアにも売っているが効果が薄かったり、もともと焼くのが健康的という認識なので肌の老化のみを抑えるものが多く売られている。夏の後半は日本の日焼け止めの優秀さを痛感した。

「スキンケア類」

留学先で自分に合うものを見つけるのは難しい。やはり日本製のもので自分に合っていて質が高いように思えた。ただ、現地の水は硬水なのでシャンプー類は現地のものを使った方が泡立って香りも良い！

「薬類」

何回か風邪をひいたり胃もたれしたことがあったが、日本から持って来た薬があったので安心して乗り越えられた。

「お茶パック」

食後や食べ過ぎた日に日本茶があるとかなりほっとする。友達はお茶好きが多かったのでちょっとしたギフトにも喜ばれた。

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

「簡単な英会話の本」

出国前に英会話ができるか不安だったため購入したが、あまり使わなかった。学校生活の中で会話力は身に付いていった。ただ、事前にダウンロードしておいたイタリア語と英語の有料辞書(アプリ)は最後まで酷使していた。特にイタリアのスーパーマーケットでは知らないイタリア語が溢れているので役に立つ。

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

・すぐに話しかけてくる。

街や tram の中で道を聞かれたり話しかけられることがよくある。あいさつも盛ん！

・昼食後のコーヒータイムがすごく大切。

昼休みは長く、ゆっくり楽しく昼食をとったあとみんなでコーヒーを飲みに行く。コーヒーの種類はとにかく豊富でそれぞれが細かい好みを持っている。高そうなお店でコーヒーを飲んでも価格はだいたい1€~で安くおいしくコーヒータイムを過ごせる。

・遅刻、遅延が多い。

電車や tram はよく遅れるが本数が多いので時間を調べるのではなく来たら乗る、という習慣になる。交通機関はストライキがたまにあるので交通機関のHPをチェックしておく。授業は少し遅れてスタートすることが多いので遅れて来る人もいる。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行

長期休みには、イタリア北～南にかけて友達の故郷を訪ねたり、クラスの友達と島へバカンザに行っていた。ヨーロッパへ留学するとアクセスが良いのでたくさんの国々に旅行するのも良いが、私は一年を通してイタリアの国内を旅行する機会が多かった。地域ごとに風土や人々の気質も多岐に渡っていて、長く滞在していると現地の人たちと関わったり地域ごとの背景がわかってきて、考え深く、刺激的だった。移動はTrenitaliaという鉄道や、FLIX BUSを利用した。飛行機は早めに予約すると周辺国々にとても安く行ける。

その他 * 気分転換やストレス発散法など。

香りのあるボディソープやクリームの種類が豊富でイタリアやフランス産のものも安く買えるので疲れたときに使って気分転換していた。部屋の中は土足で入る場合が多いのでヨガマットを敷いてストレッチしていたのも心が落ち着いた。
友達と運河添いを散歩したり公園でただ寝そべったり、空いた時間で自然に触れるとストレス発散になる。

5. その他

5-1. 留学先大学について

○キャンパスについて

ポリテクニコではミラノ内に3つの大きいキャンパスがある。それぞれのキャンパスで図書館やプリントショップなど施設が整っていて土日に開放しているところもある。デザインキャンパスは校舎の前と横に庭があって、スポーツをしたり食事をしたリリラックスしたり、憩いの場になっている。キャンパスの周りには安くて美味しいごはん屋さんや画材屋・本屋あって、大学生を送りやすい環境が整っている。

○授業について

授業やワークショップは企業と関わっていることが多い。演習の授業でも授業の前半には専門のデザイナーやスペシャリストからのインプットがあって、知識を増やしなが実践を積むことができる。また、ミラノの街と密接に関わっている場合も多く、ミラノ内でフィールドワークやインタビューをしたりデザイン事務所やエンジニアを訪れて専門的なアドバイスをもらう機会がある。

○学生について

クラスには20カ国以上のクラスメイトがいて、文化や気質を知ることができる。留学生が多いので留学生受け入れの仕組みが整っていて履修やテストの登録もわかりやすい。

5-2. 留学希望者へのアドバイス

ポリテクニコの授業はデザイン領域の中でも種類が豊富でいろいろと試してみたいくなるが、一つ一つの授業の内容が濃く(単位数も多く)、スタジオの授業は週に一回の開講でも毎日のようにミーティングをして進めていかなければいけないことが多い。そのためどの授業にどのくらい重点をおき、どれくらいの授業数をとるか経験のある人にアドバイスをもらって時間割を決めていくと良い。

5-3. 留学を終えて

私は大学4年生後半から修士1年生前半のこの時期に留学させていただいて本当に良かったと思っています。特に良かったと思うことは、自分の考えを持って行動できるようになったことです。留学先に行っただけからは、日本にいた頃とは全く違う新しい環境で、友達も知り合いも1人もいなくてゼロから作り上げていかなければならない状況でした。毎日が選択の連続で次どうすれば良いのか、自分はどうしたいのか考えながら行動していました。

また、身近にイタリア人がいて、クラスには世界中から集まったクラスメイトたちがいて話をしているとあなたは どう思う？ どうしたい？ とあたりまえに聞かれます。グループワークの中でも自分の意見を持って発信していかないと、なにもできない状況でした。そのような環境の中で英語が完璧じゃなくても情熱を持って発言したり行動することはとても良い訓練になり、自信にもつながりました。

イタリア語で開講されている授業に1人で挑戦したとき、グループワークは全員イタリア人なので最初は言葉の壁で気を抜くと話し合いの外に追いやられてしまう状況でした。そんな逆境の中でもどうしたらチームに貢献できるか考えて、いつも全力でアイデアを出し、積極的に絵を描いて意見を発信していくことを続けました。時にはチームメイトと意見がぶつかることもありましたが、最初の頃と比べると積極的になっている自分に驚きました。最終プレゼンが終わったとき、チームのイタリア人たちはイタリア語が話せない私がチームにいたことはマイナスではなく、君がいてくれて本当に良かった！と言ってくれました。他のデザイン領域のイタリア語の授業に参加したことは不安だらけの大きな挑戦でしたが、結果的に大切な仲間と成長した自分と出会うことができ、飛び込んでみて本当に良かったと思います。

1年間同じ学校にいてみて、人との関わり方やグループワーク、生活のことなど最初の頃とだんだん変化していくのがはっきり感じられました。土地や現地の人とすっかり慣れて、私にとってミラノでの暮らしはどんどん居心地の良いものになっていきました。1年間いたおかけがえのない友達、人とのつながりを築くことができ、イタリアは私にとって特別な場所になりました。ここで出会った人々と過ごした日々は私の人生の宝です。

1年間、たくさんの方々に支えていただきました。支えてくださった両親、先生方、留学課の職員の方々に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。